

unicef

ユニセフと地球の子どもたち

http://www.unicef.or.jp

エチオピア
Ethiopia

地雷のおそろしさ伝える
デスタアレムくんの願い

「地雷」って知ってる？ 地面にうめられた爆弾で、少しの力だけでも爆発する、とてもおそろしいものなんだ。手や足をうしなったり、命がうばわれたりすることもある。地雷の被害にあったエチオピアのデスタアレムくん(十一歳)は、学校で、地雷はとても危険だということを学んだ。ユニセフの活動に参加しているよ。

ぼくの国は何十年もの間、となりのエリトリアと国境線をめぐってあらそっていました。

戦争が終わって、ぼくの家族は、やつと村にもどってきたんです。家はあとかたもなくこわれていて、すごく悲しくなりました。

村のまわりに
まだまだ残る

村には戦争中、地雷がたくさんまかれました。村のまわりには、まだ地雷がのこっています。専門

の人がとりのぞく作業をしています。とても注意が必要で、時間がかかりました。ときどき地雷を爆発させる音が聞こえます。



友だちと遊んでいたとき、ぼくは地雷を見つけてしまった。どんなものだろうと少しさわっただけなのに、突然爆発したんです。



運よく町の病院で治療を受けられましたが、右手の二本の指をうしなっていました。



友だちが「大丈夫？ 手が真っ赤だよ！」とびっくりした顔でいうので、見ると右手が血だらけです。おそろしくなっています。着ていたTシャツで手をまいて、すぐに村の保健センターに行きました。

そんなぼくを心配して、毎日毎日来てくれる友だちから話を聞くうちに、だんだん学校がなつかしくなってきました。みんなが勉強したり、遊んだりしているようすがうて、学校に

触った地雷爆発！指二本失う 体験話し学校で注意呼びかけ



地雷のおそろしさをうたえる子どもたち
＝エチオピアのティグレ州で ©日本ユニセフ協会

もどりたいという気持ちで少しづつわいてきたのです。



ユニセフの人たちのすすめ

ぼくは将来、先生になりたいと思っています。このまま希望をあきらめたくありません。そんな思いです。学校で、ユニセフの職員の人から「学校の友だちに、きみのつらい体験を話したりする活動に参加しないかい？」

掲載は一週おき。次は二十一日の予定です



いま学校で、ボスターがわりの地雷の絵をかいた布を使いながら「見つけたら絶対にさわらない」「専門の人に処理してもらおう」「地雷原には入らない」とつたえています。村から地雷が全部なくなつて、だれもぼくのような被害にあわなくてすむように、とねがっています。

ティグレ地方で地雷の被害にあった人(2001年)



世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

子どもの権利条約

どれるようにしなけれはならないと、うたっています。「地雷」によって

をつらい体験をしたデスタアレムくんは、まわりの人びとにはげまされ、地雷のおそろしさをつたえる活動に参加することで、元気を取り戻すようになりました。

おしえて！
ユニセフ

ユニセフって何です？

これが活動の使命です。

ユニセフは「国際連合児童基金」とい

本部はアメリカ合衆国のニューヨークにあり、働いている職員はおよそ七千人。職員の

い、世界中の子どもを守るために活動する国連の中のひとつの機関です。一九四六年の第一回国連総会でつく

が、活動の現場となつていて、五十八の国と地域で、さまざまな人々と協力して活動しています。

世界中の子どもたちを守るための国連の機関

たとえば、子どもの命と健康を守る活動、栄養不良をなくす活動、安



中の子どものユニセフって？ 全な水とトイレを使えるようにする活動があります。すべての子どもが学校に行けるようにする活動や、災害や戦争の被害にあった子どもたちを守る活動など

ユニセフと
いっしょに

大阪府岸和田市
八木北小学校

病気が苦しい仕事でつらい思いをして

し作戦から始まって、使い古した廃油

四年生がフリーマーケット開いて寄金

からいろいろな色のキャンドルをつくった。書きそんじした半紙からはがきをつ

間では、ユニセフについて勉強しました。資料を読んだり、



ホームページで調べたり。世界の子どものたちがとても苦しい生活をしていることがわかり、わたしたちができることはなにかと考えて、フリーマーケットをする

フリーマーケット
子どもたちがつくったチラシ

